

明善同窓会関東支部 会報

発行：明善同窓会関東支部
会報委員会
事務局：世田谷区上馬 1-2-11
電話：03-3421-6071
ホームページ：
http://www.jinryoku.com/



関東支部会長挨拶

関東支部会長 昭和41年卒 別府秀喜

「新生」同窓会関東支部節目の20周年

今年が平成の時代となって四半世紀。一昨年3月11日の東日本大震災・大津波、原発崩壊と放射能飛散から丸二年が過ぎましたが、その傷跡はまだ癒えていません。ただ、昨年末の政権交代による期待観から円安基調と共に株価は「辰巳天井」（千支が昨年辰で今年巳）もあって右肩上がり、景況感に一筋の光明が見え始めました。



さて、同窓会関東支部の「総会・懇親会」開催日が今年から風薫る5月になりました。昨年は気温33度の酷暑の中で、一昨年は梅雨時の豪雨の中の開催でした。高齢化が進む当会の年齢構成を考えれば、7月開催は酷な状況下での開催であったことは否めません。今年も「新生」同窓会関東支部として記念すべき第20回を迎えます。創設は1980年。初代会長は川合寿人先輩（故人。元警視總監）。92年（7回）までは隔年開催でしたが、紆余曲折があつて94年からリストア1回。年1回開催となって現在に至っています。第1回から33年、通算で27回目の開催。これまでご指導いただいた諸先輩方に心から御礼申し上げます。昨年の関東支部活動は月1回の幹事会を基本にホームページの充実・名簿管理・会報編集・高校現役諸君の修学旅行時の企業研修対応、真夏の全国定時制陸上競技大会応援などや、対外的な東京福岡県人会（大坪修会長。S32年卒）・久留米市つじじい会・高牟礼会（同郷各校同窓会）への協力などを行ってきました。加えて、現役大学生諸君との接点強化と交流促進を図るため、草場正登副会長（S37年卒）をリーダーに伊東美晃君（S55年卒）を事務局として「明善学生会」（名称募集中）を立ち上げました。今年はこの学生会に自主的運営機能をもってもらい、同窓会関東支部を大学生諸君の生活応援や就活相談窓口として機能させたいと考えています。

ところで、今年も2つの「肉眼大彗星」が地球に接近します。その一つ「パンスタース彗星」は3月5月にかけて、金星と同じ明るさで観ることができるようです。同窓会関東支部「総会・懇親会」が開催される頃、夜明けの東北東・北東上空の低位置に肉眼で見ることが可能とか。本会の5月開催を祝うかのような天体ショーです。

薫風の5月、ご家族・お仲間をお誘い併せのうえお運びいただき、先輩・同期・後輩と楽しい一時を過ごしませんか。今年の幹事役はS60年卒の諸君。井手秀明君を中心に休日返上で準備に当たっています。粉骨砕身、多忙な本業をこなしながら準備に汗している幹事団諸君のご尽力に改めて心から感謝します。

明善同窓会 会長ご挨拶

同窓会長 昭和41年卒 真木大樹

平成24年12月、明善同窓会代表幹事瀬戸様からメールが届きました。毎年7月の関東支部総会を気候の良い5月に変更することに伴って会報を2月下旬に発行したいので、挨拶原稿を早く送ってほしい旨のご依頼がありました。思えば昨年の7月14日の関東支部の総会には出席の予定でありましたが、その日の早朝、5〜6時の久留米市の一時間降水量が66ミリという記録的な大雨、前日の昼過ぎにも56ミリ及び37ミリの大雨で、昭和28年の大洪水を凌ぐような降り方で筑後川も大増水、以上のような理由で止むなく欠席をさせていただきました。昭和28年当時のままの堤防であればもっと大きな被害が出たのではないかと、改めて水の恐ろしさを感じました。八女地区や久留米市内の田主丸町も大きな被害が出たものの、私の奉仕している水天宮では神事に「御座船」を所有していますが、棧橋が土砂で埋もれた程度の被害で済みました。近年の地球温暖化による集中豪雨、突然の竜巻や火山活動、地震などの自然災害が目立つように思います。ところで母校明善高校は昨年より着工致しましたA



棟は、強固な岩盤のため2ヶ月程工事が遅れたそうですが、いよいよ供用されるようになりました。西側の西棟についても、来年6月より解体工事が行われる予定だそうです。（以上第一期工事）

その他の棟も順次解体・建設され、最後の図書館棟（第4期）まで平成29年12月末までに終了の予定と伺っております。未だ正面の棟は変わっていませんので、正門からの風景には変わりありませんが、裏の方に入ると日々変化している姿が見られ、期待している中にも一抹の寂しさも感じています。

結びに明善同窓会関東支部の益々のご発展と会員各位のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げご挨拶と致します。

退任のご挨拶

校長 荻 八州夫



関東支部の皆様におかれましては、益々お元気にご活躍のことと拝察申し上げます。皆様には日頃より、母校のために温かいご支援を賜り心から御礼申し上げます。なかならず、本校修学旅行の東京研修におきましては、支部会長の別府秀喜様をはじめ支部の多くの先輩方に企業訪問等でお世話とお心遣いをいただき感謝申し上げます。私儀、本年3月末をもって定年退職を迎えることとなります。明善高校在任は、わずか1年ではありましたが同窓会や保護者会の皆様方のご理解とご協力のもと、先生方の尽力を得ながら生徒たちとともに充実した日々を送ることができたことを本当に有り難く思っています。

昨年4月、伝統ある明善高校に着任いたしました。本校一年の在職ということは覚悟しておりました。全年度最初で最後、つまり「チャンスは一度！」で臨みました。永い伝統を誇り、着実に躍進を続けている明善にあつても改善することはあり、教育課程（35単位授業）や校務組織の見直しなどの改革に着手しました。先生方には精力的に取り組んでいただき、改善を図ることでできました。その成果は私が去った後に出てくるものですが、きっと先生方と共に描いた明善高校の更なる躍進が実現できるものと信じています。

また、次年度、つまり平成25年度の本校の努力目標の指針を「グローバルリーダーを目指す」と定め、先生方、生徒諸君にも宣言しました。そのための教育活動の改善に現在取り組んでおります。その一つに、海外修学旅行の実施があります。成長

著しいアジアに学ぶ目的で、来年度は、ベトナム、カンボジアを訪問します。明善高校でしかできない明善高校ならではの海外修学旅行を目指します。この点でも同窓会の皆様にご協力をお願いすることが多いかと存じます。何卒、宜しくお願いいたします。

私は、この3月をもって、明善高校を去ります。4月からは、新しい校長を迎え明善高校は更なる発展を遂げるものと確信します。これまで同様、学校に対してご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

第46回明善大同窓会への誘い

第46回実行委員長 昭和53年卒 山本雅典

○日時 平成25年10月12日(土) 14時30分開会予定
○場所 ホテルニュープラザ久留米
久留米市六ツ門町16-1

○テーマ 「語り合おう、感じ合おう、今を昔を
そして未来を」

明善同窓会・関東支部の皆様、こんにちは。今年の大同窓会は、明善53会が担当させていただきますので、よろしくお願い致します。本年は、例年の会場から「ホテルニュープラザ久留米」に変更させて頂きました。このことは、私たち53会の方がまます。同期に久留米市でホテルを経営している者がいる、ただそれだけの理由です。



ですから、私たち53会のメンバーは、例年以上に、会場であるホテルニュープラザ久留米と一丸となって、皆様楽しんで頂けるよう、精一杯の心からのおもてなしを致します。10月12日夕方5時、ご参加いただいた方が、ニコッとしながら、「今日は楽しかー。」

「やっぱ、明善はよかね。」
「また、来年も久留米に帰ってこんといかんバイ。」とか言いながら、同期の仲間と二次会の会場へと向かって、ちよつと千鳥足で歩いている。そんな光景を思い描きながら、準備を進めています。

お時間の許す方はもちろん、そうでない方も、少しばかりの無理をして久留米に帰って来て頂けませんか。変わらない仲間たちと語らいながら、明善高校の未来を、同窓会の未来を、そして、故郷久留米の未来を感じて頂きたいと思えます。関東支部の皆様のおひとりでも多くのご来場をこちらからお待ちしています。

卒後50年・古稀を迎えての
記念誌発行と記念旅行

明善37会 野上和子

平成24年3月に、卒後50年古稀を祝って記念誌を作ろう」と同期の一人原田幸治氏より提案があり、同期の賛同で実行委員会を立ち上げた。当時の幹事と共に実行委員長の足立三千男氏を中心に委員の方々が、多忙の中何回にも渡り会議を開催した。会議の途中お互いの意見のおつかりを経験しながら、又同意しながら着々と進行していった。同期の近藤南氏が編集長として率先して121名分の編集作業に心血を注ぎ、約390時間を超えるデザイン、編集作業に携わり並々ならない心労があった事には同期一同感謝感謝でした。こうして出来上がった作品の中の一人一人の生き様、心に残る各自の思い、個性が素直に伝わって来る素晴らしい記念誌の発行に関して、明善の後輩の好意で九州地方の西日本新聞に大々的に掲載されました。同期は勿論の事、先輩、後輩を始め現在在校生の心を打ちきつと皆感動を覚えた事だと推察致します。今後何十年、何百年と歴代に残る記念誌の完成だと同期一同自負している次第です。

平成24年11月18日(日) 19日(月) 熱海に記念誌発行の記念旅行を挙行了。当日は爽やかな快晴に恵まれ、参加人数は40名、チャーターバスで東京駅、九州からの参加者の為に羽田空港、JR新横浜駅と3か所の集合場所に参加者をピックアップしながら車中で配布された記念誌を皆食いつくしながら車中で配生に思いを馳せ、お互い思い思いを語り合いホテルに向かった。夜の懇親会は佐野良一氏の司会で和気あひあいと進行した。最初に自己紹介の後、記念誌に関して思い思いの感想を述べ皆で記念誌完成発行の喜びに浸った。カラオケルームで皆で発奮し、明善校歌、一本締めで締めくくった。最後に幹事さん、実行委員会、編集委員会の皆様方の御苦労に感謝致します。



古稀を祝う会 熱海 2012/11/18

「よいかい」(S41年卒)
佐倉市への日帰り「散策」ツアー

「よいかい」平成25年代表幹事 榎博行

明善「よいかい」(S41年卒)では、毎年の同期会(懇親会)のほか、2回ほどの日帰り散策ツアーを企画している。昨年は千葉の佐倉と茨城・筑波を訪れた。佐倉ツアー(2012年6月10日実施)、佐倉市には佐倉城址公園、DIC川村美術館、国立歴史民俗博物館などがあり、いつもは平凡な日常生活を送っている私でも、非日常的な世界に誘ってくれる所でした。佐倉城は、幕末期に日本を開国に進めた老中堀田正睦(まさよし)が城主、佐倉城址公園にある数十種類の花菖蒲をめでながら、菖蒲の種類が多さに驚かされます。大勢のアマチュアカメラマンが楽しそうに撮影していた。

DIC川村美術館には有名な西洋の画家の作品が展示されているが、私のお目当ては長谷川等伯の鳥鷲図屏風。長谷川等伯は日本経済新聞の連載小説で知り、信長、秀吉、家康の時代に狩野派の画家より優れた絵師とのこと。館内案内のパンフレットにも等伯のことは掲載されていたが、等伯の作品は重要文化財の為に年間のうち3ヶ月の展示、残念ながらお目にかかれなかった。



満開の花菖蒲 (佐倉城址公園にて)

連載小説『等伯』の作家は安部龍太郎氏で、最近になって又、等伯が話題に、なんと直木賞受賞。しかも彼は八女市黒木町生まれの久留米工業高専卒。何かで繋がっているようで、不思議に思った。直木賞といえば、葉室麟氏(S46年卒)が昨年に『蝸ノ記』で受賞、それに続く同郷人の受章となり更に驚き。また何時か佐倉を再度訪れ等伯の作品を見たいと思っている。皆さんも時間があつたら是非佐倉を訪ねてみては如何でしょうか。

八ヶ岳の四季

昭和42年卒 樋口正雄

九州を離れて四十年が過ぎ、現在、長野県の蓼科高原に住んでいる。普段は中学生や高校生相手に数学や英語を教え、休日には森の木々、高山植物等を眺めながら八ヶ岳を歩いている。自然との出会いを振り返ると、高校生の時に友人達と伸びやかな草原が広がる阿蘇山やミヤマキリシマが咲く九重山を歩いたことが原点のようだ。

冬の朝、蓼科高原は深い雪におおわれ、マイナス十度を下回る日々が続く。朝起きると薪ストーブに火を入れる。しばらくすると橙色の炎が輝き、室内は柔らかく暖かい空気に包まれる。サンデッキにヒマワリの種を出すと、ヤマガラ等が種をつつきにやってくる。風も和んだ日は、雪におおわれたモミヤカラマツの森を歩きにでかける。樹氷、氷のオブジェ、点々と残る動物の足跡等を眺め、自然とふれあうことができる。春も彼岸を過ぎると、日増しに気温が上がる。山麓では残雪も小さくなり、見上げる八ヶ岳は日に日に山肌が黒くなっていく。この時期に八ヶ岳の森を歩くと、地面は深く硬い雪におおわれていて、時々雪に足をとられて思わぬ時間をくうことが多い。連休も過ぎると、カラマツやミスナラが黄緑色の芽を出し始める。山の雪もようやく融けて、瑞々しい苔の森が広がる。何十年、何百年と経ったモミヤカラマツは、幹に苔をまとい、どっしりと台地に根を張り、芳しい匂いをふりまいている。幹に手や耳を当てると、木々の生きる鼓動が伝わってくるようで、その香りを吸い込むと元気を頂いたような気になる。

梅雨が終わると、八ヶ岳の北の車山や霧ヶ峰から花の便りが聞こえてくる。湿原に足を踏み入れると、群生したレンゲツツジが橙色のジュウタンのように見える。ツツジの花が終わると、ニッコウキスゲが草原を黄色く染め上げる。夏の八ヶ岳の縦走路のお花畑にはコマクサ、ハクサンイチゲ等の可愛い高山植物が咲き、楽しく歩くことができる。

短い夏が終わると、高山ではダケカンバやナナカマドが色付き始める。やがて、紅葉前線は急ぎ足で麓へと降りてくる。この時期いつもでかける近くの長円寺境内の一行楓の赤は美しい。紅葉が終わると、山に新雪が来て、再び、冬の森の生活が始まる。



関東明善43年同期会の今後の楽しみ

昭和43年卒 高山倫敏

久留米から関東に来た昭和43会メンバーの同期会、幹事の内田充昭さんが平成元年に開催し今に到っている。小生は昭和59年から勤務していたオランダから平成3年帰国した時から誘われて参加している。長い間海外に勤務していた田中和博さんや石井一秀さん等も定年後に日本に戻ってこられ、昨年の同期会に参加、35年ぶりの方にも会えて嬉しい限り。

平成25年は、43同期会は素晴らしい25回目。一昨年は今まではいつも来られていた女性が1人も来られず、ガツクリしていた。昨年は女性が3人、男性も入られて25人での楽しい宴会でした。幹事で元水泳部の内田さんと、現在カメラ撮影担当で元バレー部だった山田孝文さんと小生とで、昔から昨年まで撮った写真等を、昨年末の同期会参加者全員に見せることにした。沢山の写真・ビデオをSD Card というシステムに入力して、今後少しずつ見られる仕組みにした。皆様大喜び。昔の久留米市での明善大同窓会の写真も載せています、同期以外でも見たい方はご連絡下さい。

昨年の同期会は前日からスライドショー等の設定準備でヘトヘトに、毎年同期会の後で行くカラオケには行けなかった。他の皆はいつものように参加、最後に全員で舟木一夫の「高校三年生」を歌ったはず。高校生の頃の懐かしい記憶が蘇り、あの頃はこんな事をしていたな、あの子が好きだったなあと甘酸っぱい青春の日々を思い出し、タイムスリップしてしまふ。62〜63歳

になった我々が、時の流れを越えてこうして繋がっているのがとても嬉しく、これからの関東43同期会が益々繁栄して、女性も含め多くの参加者で溢れることを願う。



69会の時代がいよいよ到来!

69会 (昭和44年卒) 平井勇夫

今年の明善69会は、節目の年を迎えている。昭和44年卒業以来、今年が昭和とでは昭和88年! J.U.S.T.昭和の2倍を歩んできた。大半は昭和25年生まれ、今年が平成25年。正に昭和と平成が重なった年。69会は関東支部の主役として一段と活躍が期待される年を迎えた。

華々しい挨拶となったが、69会は皆で意気軒昂に昨年恒例行事を企画して賑やかに実施した。その1.平成24年7月14日関東支部同窓会後の懇親会(二次会)、「今回は青春時代を彷彿とさせる会場を用意しました。」を謳い文句に参加を呼び掛けた。六本木の「ケントス (KENTOS)」、知る人ぞ知るオールディーズの殿堂。静かな時は大いに語り合い、生演奏が始まればもう会話は無理。ポール・アンカの「ダイアナ」やニール・セダカの「おお! キヤロル」等をバックに踊るしかない。みんな汗だく。50年前が目の前に甦り、熱き青春時代にも負けない体力・気力で気分は最高潮、何時までも若い69会です! 三次会も当然の如くカラオケで盛り上がった。

その2.企画の第2弾、参加募集は「めつきり秋らしくなりましたが如何お過ごしですか。人の1年の時間の長さは、その1年のアルバムの写真の量に比例してみてください!」、主幹事である境君の美文。何とノスタルジックな表現。11月24日・25日に1泊2日の熱川温泉旅行を決定した。参加費用も1万円と超格安! 23名(男性17名・女性6名)。久留米からも佐藤政俊君が特別参加と相成る。バス組・電車組・車組と別れての行程だが、途中城ヶ崎の「吊り橋」で合流。再会に絶景も大歓迎。最大イベントが601号室の大部屋に全員集合しての懇親会! それはそれは一頻り思いのままを一際声高に語り合った。近況報告も弁論大会の様相。また久留米大同窓会の模様をビデオ鑑賞、そろばん踊りや同級生のアップ顔に「〇〇君だ! 〇〇さんだ!」と雰囲気も最高潮に。大部屋に一堂に会しての企画も成功裡に終了。もう69会万歳ですね。ゴルフ大好き人間は積極参加です! (久留



米の佐藤君も! 翌朝早く、ホテルを10名が抜け出し中伊豆のゴルフ場。瀬戸君も態々東京からの参加! 富士山を背景にしてタップリとプレーを満喫した。還暦を過ぎても69会はずっと走り続けます。何せ冒頭に主張した如く今年が69会が主役の年! やん。そうやらもん! やつと久留米弁が出たたい!

明善四六会 賑やかな活動続く

昭和46年卒 本村龍史

明善四六会の昨年の活動は、2月に各地から京都へ集まり、翌日の伊勢神宮参りを行ったが参加出来なかった者が多数いた事から、例年通り、春の宴会版を4月21日に開催した。23年秋から翌年春に掛けて4名の地元同期生の計報が届いた。還暦を迎える事の難しさを実感し、老人老女と呼ばれる60歳を自覚した30名弱が、おじいちゃんおばあちゃんの原宿、巣鴨の「とげ抜き地蔵」をお参り後、参道を買食いしながら散策、博多水炊きの店で宴会とした。参加者の中には本当に久しぶりに会うものも居り、相当賑やかに過ぎた。2次会のカラオケにも行ったが、皆どうしても青春時代の曲を選ぶようで、大合唱になる事も!

秋の旅行は、永い海外勤務後退職した高校卒業以来の旧友や、仙台に移動した者など17名が参加。11月10、11日に、前回東北震災の復興支援として決めていた「旧常磐ハワイアンセンター」、現スバリゾートハワイアンズを訪れた。宿泊は、まだホテル部門が全館開業出来ておらず、また同じ思いの人が沢山居たよう予約できずに近隣のホテルに宿泊しパリゾートへ送迎バスで向うことにした。昼過ぎにハワイアンズへ入場し、昼食後それぞれが思い思いの施設へ移動した。水着を着ての混浴や、温泉、温泉プール等々の施設があり、なかなか広い施設だが、さすがに皆飽きてきたらしく、7時半のお迎えバスまで待たず、結局、車でホテルへ戻った。食後の部屋での宴会も盛り上がり、以前と同じ話題が繰り返され遅くまで話は尽きなかった。翌日は、数年前に訪れた会津の五色沼へ移動することにした。五色沼では、半数ほどが疲れて途中で引き返し、年齢を感じさせられた。行ける所まで行き、残った者で記念写真を



撮り引き返した。帰りの車中では、忘年会を兼ねて持ち寄り「たこ焼きパーティ」開催が決まった。12月22日同級生の自宅、11名がそれぞれに酒、材料、手料理やクッキー、手作りケーキ等々を持参したこ焼きパーティを楽しんだ。その後またしてもカラオケへと繰り出した。こうした集まりが自然発生的に出来ればもっと良いのにと感じた。

関東支部の会員数は70名を超えるが、子育てが終わりようやく参加したが今度は親の介護になる者、定年退職等で久留米に帰った者も居り同期会も難しい時代になって来た。それでも、もう少ししたら落ち着いてくると思っている。

大同窓会当番幹事に向けての決起同期会

昭和56年卒 秋永佳世

2013年1月3日久留米ハイネスホテルにて我々56年卒の同窓会が行われました。高校卒業後30年余、齢を重ねて半世紀の仲間たちが40名ほど集まりました。卒業以来会っていなくても語る言葉は久留米弁、たどる記憶に1コマ、1コマだんだんに青春がよみがえってきます。

宴の大部分は思い出話や近況報告に充てられていましたが、最後に実行委員長の川地伸一くんの演説。大同窓会の当番というメインのテーマにみな奮い立ち・・・という具合になればいいのですが、実際問題として大同窓会に参加したことの少ない者が多く、そげん大変かとね、がんばってね(ひとごと)。状態で、私には東京の当番が1500人規模でどんなに大変だったかを思うと、久留米の1000人規模が思いやられ、みな危機感をあおり立てまくったのでした。

そのかいあってかとりあえず幹事長と連絡係その他が決まり、3年後の大同窓会に向けて第一歩を踏み出したのでした。何ごととにせよ、準備というのは大変だ大変だ、と言いつつ、終わってしまえば結構楽しい思い出になるもので、これを機に56年卒の仲間がさらさら強く大きくなっていくことを確信しています。私事ながら3年前の久留米石橋文化ホールでのコンサートの際の同級生の



あたたかい応援を考えると、「やる時にはやる!」頼りになる56年卒です。

「明善学生の会」を初開催

昭和55年卒 伊東美晃

昨年の10月2日と12月17日の二度に亘って、「明善学生の会」を開いた。当初は、先輩、後輩双方がやや緊張した面持ちで始まったが、ものの5分で打ち解け、お互いに酔いまくった挙句に2次会までなだれ込むという流れになった。かの「久留米」という田舎から、大都会「東京」の荒波に揉まれることとなる。関東の大学に通う明善卒業生の心細さを、これまた世間の荒波に揉まれまくった関東在住の先輩OBが面倒をみる、という趣旨で始まったこの会だが、先輩OB自身も酒肴とともに、筑後弁での会話や時代、年代の差、最近の明善の状況や久留米の雰囲気を感じ取り楽しんで、どちらが面倒みているのか分からない雰囲気では進み、夜は更けて行った。

現在の学生とはるか昔に学生だった人とを比較すると、共通点は筑後弁が抜けきらないところ。これは先輩たちが筑後弁で話しかけるので、ついつい学生たちも言葉が口に出てしまうが、学生たちが日ごろから使っている言葉でこれは標準語だと信じて疑わなかった言葉が、実は方言だったと気づく事も多々あったようだ。違う面、呑むお酒の種類がおしゃれになったり、着ている衣装がおしゃれだったりといういろいろとあるが、このあたりは世代差だからしょうがないところかもしれない。あとの相違点、昔と違って新しい履修コースもあり、久留米市以外からも多くの学生が通うようになったことだろうか。明善タイプの学生のバリエーションが増えているように感じた。昔はいなかったようなタイプの学生だなぁと感じるところもある。

学生たちもこれからの就職活動などに参考だと思ふのか、自分たちの知らない「仕事の世界」の話に興味深々、いろいろな話を耳を傾け、また質問してきた。次回を4月上旬に予定したい。新たな卒業生も迎え、さらに大きな会になれば面白いと思っている。興味のある方は年代問わずご参加願いたい。



平成24年総会幹事を振り返って

昭和59年卒 淡河英明

思い返せば自分が担当した昨年総会から1年以上前に、昭和58年卒の先輩方から翌年の幹事の役回りを引受けてほしいとお話をいただき、学帽引継ぎの「儀式」を終えて幹事の任事がスタートしました。それまで関東支部の存在すら知らず、総会もその時初めて出席した自分にこの大役が務まるのか不安な中でスタートでしたが、在郷の同級生の協力や今流行りのフェイスブックを駆使し関東在住の同級生集め、懇親会企画、案内状発送作業等順調に進めることが出来ました。しかしながら総会の肝である講演者選定のところで難航。最終的には諸先輩方のサポートもあり、平成11年卒のテレビ東京キャスターである豊島晋作君に決定。彼自身多忙な中での調整だったと思いますが、我々の「お願い」(命令?)を快く引受けていただき、素晴らしい講演に仕上げてくださいました。

総会当日はご来賓を含め総勢160名余りにお越しいただき、地元の方含め多数のご協賛もいただき、無事盛会に終えることが出来ました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。昭和59年卒の同級生のメンバー、特にアナウンサー経験者やPC回りの技術者など、各方面でのプロが同級生にいてくれたことも助けられたというか、幹事としては頼もしい限りでした。自身の感想としては可能な限りのパフォーマンスを出せたと満足しております。総会後の反省会ならぬ2次会では、大役をやり終えてホッとした気持ちと、それまでの苦労が脳裏に浮かび、スピーチの場で感極まってついホロリとしてしまいました。

その後も郷里のメンバーを含めた同級生の交流が活発化し、地元の話題やそれぞれの仕事の話などで刺激を受けることも増えており、幹事をやり終えた後の収穫でした。今後も諸先輩・後輩の方々とも交流を深めていければと思う次第です。



今年の関東支部同窓会幹事です

平成25年総会幹事 昭和60年卒 南 公雄

思えば昨年7月の総会最後の幹事引継ぎ式で、瀬戸さんから指名され訳が分からず壇上に上がり、前年代表幹事の淡河英明さんから学生帽を受け取ってしまったのが苦悩?の始まりだ。あの学生帽を受け取ってしまった以上、とにかくやるしかないかと変な決意が芽生え、大役を引き受けることにした。(これはすべて同期の田中孝典君の陰謀だが)ただ、総会当日の同期の出席は6名。先輩に聞くと事前の作業も結構あるし当日の取り回しにも20名以上は必要とのこと、翌日から同期を集めに奔走した。そして、まずは顔合わせというところで11月19日に赤坂有蕙で第1回目の同期会を開催。19名が集まり旧交を温めた。約30年ぶりの仲間もいたが、やはり集まれば授業やらクラブやら懐かしい話で大いに盛り上がった。その後は次第に仲間が仲間をよび、今では関東在住の40名を超える同期がメンバーリストで情報をシェアしている。

今年に入って月1回の頻度で準備会合を重ねている。同期なので遠慮がない分、ずばずばと言いたいことを言い合い皆で準備を楽しんでいる。同期が集まる機会を与えていただいた本同窓会に感謝を示すためにも、来るべき総会を盛り上げていきたいと思っている。

関東支部「第8回ゴルフ大会」開催される

ゴルフ委員長 山下政晴

関東支部ゴルフ大会は毎年春、秋の2回開催している。秋の「第8回大会」は、前回優勝の石井一秀さん(43卒)幹事のもと、10月28日(日)に「水戸ゴルフクラブ 南・北コース」で開催した。総勢24名が参加、うち女性が3名、卒業年次は昭和33年卒から平成13年卒まで老若男女入り混じっての熱戦。いつものことながら鍛冶橋よりチャーターバスを運行、バス組は7時に出発、スタートは9時17分。ハンデイクヤップ戦で熱戦を繰り広げた結果、優勝は嶋田哲さん(ネット69)、女子の部優勝は古賀啓子さん(ネット76)、ベストグロは井手秀明さん(83)。因みに最下位のネットは96。名前は本人の名誉のために秘。又、常任BBであった某女史が今回は練習の成果を充分に発揮し躍進、18位に食い込んだ。賞品は全参加者に素晴らしい物を毎回ながら尋木浩司さん(61年卒)が事前に準備してくれた。明善ゴルフ大会は雨が降ることが多いが今回雨は降らず、楽しいゴルフをエンジョイすることが出来た。帰りのバスの中はいつもの如く移動宴会場となり、東京に到着するまで続いた。次回正幹事は優勝の嶋田

第5回 秋明戦 打撃戦力及ぼす

昭和51年卒 内田直人

明善高校と秋田高校の野球部は同じ創部114年、この縁で4年前から関東在住の両校OBにて対抗戦を開始した。明善高校は全国大会出場2回(第2回・大正5年、第4回・大正7年)ただし米騒動で中止、当時は甲子園球場ではなく豊中球場で開催)対する秋田高校は甲子園出場19回の強豪である。これまでの戦績は、秋田3勝、明善1勝。昨年11月3日、人工芝のグラウンドが改修された東大野球場で第5戦を迎えた。明善は関東東球会本村会長はじめ30名のOBが駆けつけた。明善、1、2回何と秋田高校の先発小玉投手から6点先取、今年こそは2勝目が上がられると早くもブレイクが入る。明善先発、訓練十分の江頭投手(自衛隊)も順調な滑り出しで秋田打線を抑えた。しかし投球予定を3回超えた4回疲れで球速が衰え、さすがに秋田も隙のない打線が火を噴き、また明善も新調された人工芝に慣れずに足元乱れ失点を許し、秋田に逆転された。その後、明善投手は草場70歳、友池55歳、酒見53歳と継投、両校追加点を上げるも、再逆転はできずに終われば15対10で4敗目を喫す。敗因は歳の差か、秋田は小玉監督51歳を除けば長兄は38歳甲子園出場菅原投手、また若手大学生OBも5名出場、一方明善は最若手が34歳、体力とスピードに劣ることが敗因でもある。高齢化するOB諸氏の日頃の体力増強に期待すると同時に、若手OBの上京に期待する。

恒例の御徒町ガード下での延長戦は、大先輩OBも多数参加、筑後弁と東北弁が入り混じる交流戦。言うまでもなく明善が人数で圧倒した延長戦であった。さんなれど、会場の予約等は今回参加者の中でのバリバリのYOUNGEST、H13卒の平野雄大さんが自ら志願し引き受けてくれることに。



第9回ゴルフ大会参加者募集

○日時：4月6日(土)
○場所：箱根 湯の花ゴルフ場
○料金：一八、五〇〇円(プレー代、商品代など込)
申込み・問合せ：平野雄大(平成13年卒)
yuta.hirano@gmail.com

ピースフル・コンサート VOL.2

昭和56年卒 秋永佳世

日時 9月23日(月・祝)午後2時開演
場所 カトリック松原教会(京王線・井の頭線「明大前」駅下車 徒歩4分)
出演 秋永佳世(ソプラノ)他2名
料金 三千円(全席自由)
お問い合わせは エンゼル音楽事務所
090-1703-5387 まで

平和を願う気持ちを込めて、古今東西の歌を歌います。皆さまのご来場お待ち申し上げます。

年会費のお願い

関東支部 幹事会

本会報はじめ総会のご案内を関東支部同窓生、約2000名に発送していますが、年会費2000円のご協力頂いている方は、総会参加者含め約300名です。関東支部では総会、学生交流会など、年代を超えた同窓生の繋がりを目指し活動を行っています。活動の趣旨をご理解の上、年会費納入に関して、皆様方、特に総会に参加できない方もご協力よろしくお願致します。

編集後記

母校の新校舎新築工事が本格的に進んでおり、学生時代の思い出詰まった学び舎がここ数年でなくなると思うと寂しい気がする。今一度機会を見つけて目に焼き付けておきたい。旧友と一緒に青春を過ごした学び舎での記憶は永遠に残るはず、学び舎での思い出話は永く尽きないことを願う。学生交流会が開催され、年代を超えた交流が進んだようだ。郷里を離れた若手卒業生にも関東同窓会の交流の和が広がることを期待する。参加してみたいかと思わせる魅力ある同窓会をめざし尽力したい。また読者のご協力も願います。

関東同窓会ホームページへも情報発信しています。
http://www.jinryoku.com/

(ユーザ名 meizen / パスワード kurume)
会報委員会 内田直人(51年)、山下政晴(43年)
五十嵐恵美子(47年)、豊福和弘(54年)